科目ナンバリング					
授業科目名<英訳>	言語比較論 Comparative Language Studies			担当者所属職名・氏名	人間・環境学研究科 教授　齋藤　治之
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	芸術・文学・言語(各論)	使用言語	日本語
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2024・前期	曜時限	火3	配当学年	２回生以上	対象学生	全学向

（総合人間学部の学生は，全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。）

[授業の概要・目的]

諸言語を比較する方法の習得を目指すと同時に、言語変化の法則性とメカニズムについて考究する。さらに、言語理論史に関する知識を深める。

[到達目標]

比較言語学の基本的な事柄を理解する。

[授業計画と内容]

　印欧語の世界を視野に収めながら、ことばの普遍性・体系性を明らかにすることを目標とする。史的言語学の諸分野（音論、形態論、統語論等の諸領域）を対象に、言語体系の普遍的な法則性を探るべく、通時的考究を進める。比較言語学的な方法と併せて、言語の理論的考究による種々の成果を踏まえ、言語学の方法論上の問題についても考察する。言語類型論なアプローチ等により、ことばの諸相を考究することによって、多様性の背後に見え隠れする言語の普遍的特質を追求する。以上のような立場から、言語体系の法則性・言語変化のメカニズムを探り、そのあり方を解明することを通して、言語の本質に迫る。

　今年度は印欧語比較研究言語学の概説を下記の項目に関して行う：

１．インド・ヨーロッパ語比較研究の歴史
２．インド・ヨーロッパ語の分類
３．インド・ヨーロッパ語の音韻
４．インド・ヨーロッパ語の形態
５．インド・ヨーロッパ語の統語
６．インド・ヨーロッパ語の語彙
７．インド・ヨーロッパ語族と他の語族
８．まとめ

各項目につき１～２回前後の授業で取り組む予定である。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（５０%）・レポート（５０%）に基づく総合評価による。

[教科書]

プリントをこちらで準備・配布する。

[参考書等]

（参考書）

James Clackson 『Indo-European Linguistics』（Cambridge University Press）ISBN:978-0-521-65367-1

専門的知識は必要としないが、ドイツ語、フランス語、スペイン語、イタリア語、ロシア語などヨ

言語比較論(2)へ続く↓↓↓

言語比較論(2)

ーロッパの言語を一通り学習することが望ましい。しかしアラビア語、などインド・ヨーロッパ語以外の言語を学んだ者でも、方法論の習得という観点から歓迎する。

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に紹介する文献に目を通すこと。

[その他（オフィスアワー等）]

＊オフィスアワーの実施の有無は、KULASISで確認してください。